

緑と環境ミュージアム

- みどりの“きっかけ”美術館 -

「緑豊かな生活環境」は現代都市の目指す一つの共通価値ですが、都市生活者ほど植物の知識が無く、購入や生育にハードルを感じることも多いはず。そこで、もっと直感的に緑と、その緑に適した環境を知ることができる仕組みをこの広場で実見的に展示したいと考えています。取り組みを通して実現される「環境教育プログラム」付きのハウジングは、世界でも初の取り組みとなり、未来の都市生活の姿の一つになると考えます。



STEP-0

生活の活気が溢れる団地の未来へ

ハードとして美しく整えられた赤羽台団地に、かつての団地のような生活の活気が溢れることで、より魅力的な街並みが形成されると感じました。今回のご提案により、知識ときっかけを得た住人の皆様が育てた緑に、団地がカラフルに彩られる風景を目指したいと考えています。

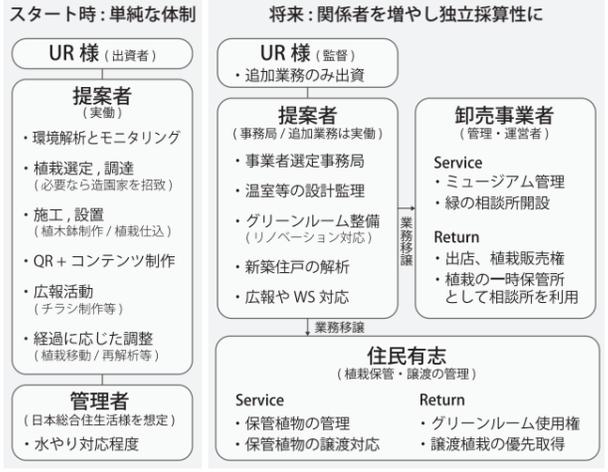
STEP-1

みどりの“はじまり”づくり

保存棟の屋根や樋を用いて自然エネルギーを集めます。それを用いて温室か保存棟の一室で半自動的に苗を屋外展示可能な大きさまで育成します。自然エネルギーのポテンシャル自体を展示として見せながら、STEP2のための植物を育てる試みです。

管理・運営体制の構築

手始めにSTEP2のみであれば、出資者をUR様、実働を提案者チームとする単純な体制で実施可能です。将来的には植物の販売と管理を行う事業者を誘致し、独立採算の運営を目指します。

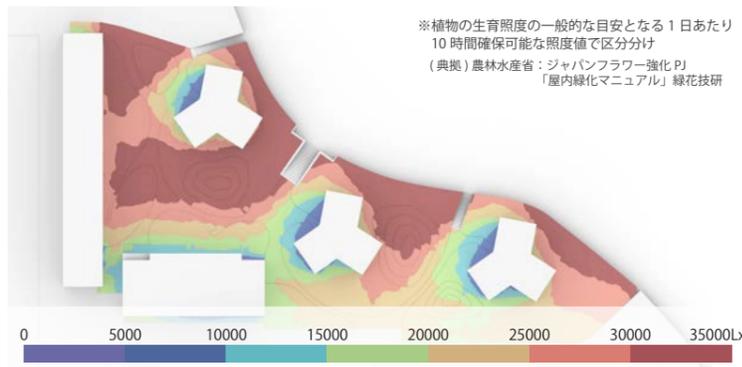


※Main contents STEP-2

みどりの“きっかけ”づくり

対象広場を環境解析し7段階に区分け

スターハウス特有の形状や配置計画、その他様々な要因で対象広場は複雑な光環境を様しています。この環境をメリットと捉え、光環境解析(植物の育成条件となる1日10時間の照度値)の結果に応じて、広場を7種類の照度区分に色分けを行います。

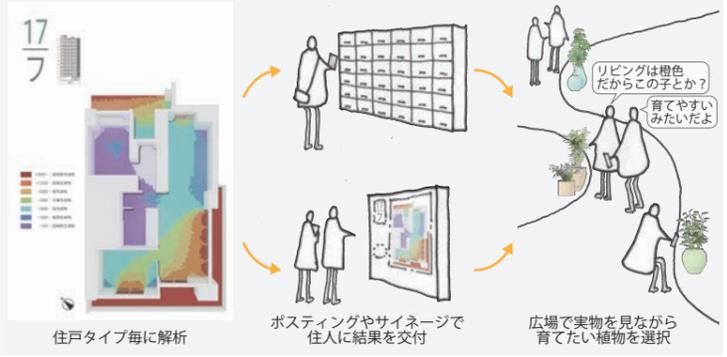


環境条件を植木鉢の色と樹種で可視化

7色の環境区分色を塗った植木鉢と、その環境に適した樹種を選定し、広場の芝境界部のロープを置き換えるように展示を行います。来場者は植木鉢の色分けによって直感的に日向向きの植物か、日陰向きの植物かを知ることができます。同時に可視化される広場の環境分布も一つの展示物となります。

QRコードによる情報発信

植木鉢にはQRコードが添付され、端末をかざすと樹種、推薦される環境区分、生育方法、購入リンク(将来対応)が表示される仕組みです。鑑賞者はその環境と実物を見ながら育ててみたい植物を選ぶことができます。アクセス統計を取ることでエリアや植物毎の人気度もモニタリング可能です。



同様の解析を団地各住戸に行い通知

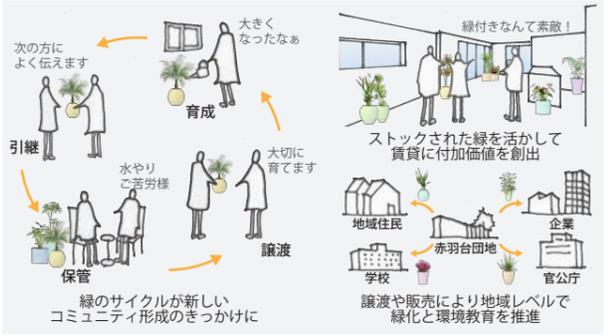
住戸がタイプで分類される団地の特性を活かして、代表的な住戸プランを広場と同様に光解析します。ポスティングないしミュージアムの液晶画面等を用いて、各住戸タイプの光環境がどのような分布かを通知します。住人は自室の分布を見ながら、置きたい場所に適した植物を、広場で実見しながら選ぶことができます。

STEP-3

みどりの“はってん”づくり

団地全体がミュージアムに

きっかけを得た住民によって少しずつ団地の専有部/共用部に緑が増えていきます。希望者には広場と同色の植木鉢を使ってもらうことで、団地全体がカラフルな色彩で環境を可視化するミュージアムになっていきます。



引き継がれていく緑

退去する方の緑をグリーンルームで引き取り、団地の新規入居者に一定の条件(個数制限等)で譲り渡す仕組みを構築します。また増えた緑を住戸とセットで賃貸し、付加価値をつけた賃貸の仕組みや、地域に譲渡・販売するというような還元の仕事も視野に入れます。